

## できごと

令和3年7月13日(火)から8月20日(金)の間、期間限定の動画配信により「子ども図書研究室講演会」を開催しました。1ページから3ページでその一部を報告します。

## お知らせ

「新刊サロン」動画配信中！

当館子ども図書研究室では、毎月200冊から300冊の新刊を受け入れており、「新刊サロン」ではその中から職員が子どもの本の紹介をしています。これまで子ども図書研究室を会場に開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在はYouTubeで動画を配信しています。期間中はどなたでもご覧になることができます。今年度第2回の配信は令和3年10月19日(火)午後5時まで行っています。第3回の配信は10月末を予定しています。

【視聴方法】

下記二次元コードまたは当館ウェブサイトからURLをクリック

【申込】不要

【お問い合わせ】静岡県立中央図書館 資料課

電話：054-262-1243

FAX：054-264-4268

メール：webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

県立中央図書館公式 YouTube チャンネルに移動します。※配信期間にご注意ください。→



第2回新刊サロン（2021年8月）の様子

## 令和3年度

## 子ども図書研究室講演会

児童文学作家で、トモエ文庫を主宰する草谷桂子氏に『絵本の魅力：ジェンダーの視点で楽しむ』と題してお話しいただいた内容の概要をご報告します。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会は期間限定の動画配信での開催となりました。



静岡県牧之原市生まれ。村はずれの小さな集落の大家族の中で育った。代々神主をしている家で、父は教員だったので、いつもまわりに人がいた。自然豊かで人情も厚い環境である一方、母や祖母など女性の置かれている立場が大変なことを子どもながらに感じていた。人の出入りが多く、母はいつも仕事や人の対応に追われていたため、私は祖母と曾祖母に育ててもらった。



公務員になり、結婚して出産とともに退職、子育てをしながら姑と兼業農家をしてきた。

漠然と「誰かの我慢で成り立つ家族の平和はあり得ない」と思っていたが、その考えを深める出会いや出来事が何度かあった。まずは30代前半で、夢だった家庭文庫を始めたこと。これにより、人とのネットワークや子どもの本の学びの機会が増えていき、性格が外向けになった。それ以降も、自立したハワイの少年との出会いや、静岡県男女共同参画海外研修での経験なども改めて考えを深められる良い機会となった。



2001年内閣府で「男女共同参画基本計画」が策定され、どの自治体でも男女共同参画に関する啓発誌発行、絵本作成、講演会開催など様々な事業が企画された。静岡県でも多くの啓発誌やパンフレットが作成され、男女共同参画事業

が展開した。しかし、その流れに対するバックラッシュが起こり、国会でも「ジェンダー・フリー」という言葉は混乱や誤解を招くと議題になった結果、文科省はこの言葉を正式には使わない方針を発表した。現に自著もタイトルに「ジェンダー・フリー」とあったため、ある図書館の本棚から外された。このような「ジェンダーのことを話すと“過激”」と思われた時代を経て今日に至っている。



**絵**本の定義はいろいろあるが、特に「生きるヒントをもらう」、「生きることや未来に希望がもてる」、「時代と社会を知る」、「多様なモデルに出会う」という部分は、ジェンダーの視点がある絵本からもらえることではないか。



一 国の常識、時代背景の違い

・『スモールさんはおとうさん』

(ロイス・レンスキー／ぶん・え わたなべしげお／訳 福音館書店 1971年)

アメリカで出版された。父親は働いているが、時間があれば家事や育児をして、パートナーを大事にしている様子が描かれている。

・『ママはいつでもいそがしい』

(ながさきげんのすけ／ぶん にしまきかよこ／え 偕成社 1978年)

この絵本は『スモールさんはおとうさん』と同じ頃に日本で出版された。ママはいつも忙しく働いていて、その横でパパは自分の趣味を楽しんでいる。ある日、ママが風邪をひいてしまい、代わりにパパと子どもが家事をするが、失敗ばかり。見かねたママは起き出して家事を始めて…という当時の日本の現状を表しているお話。

以上の2冊を比べた時、子どもたちは大人になることや、母親になることについてどちらの本に夢が持てるだろうか。時代背景や国の違いもあるため、絵本の良し悪しということではなく、絵本は子ども達に「人生って素敵!」と思ってもらえることが大切なのではないか。

一 刷り込みに気づく

・『はたらくくるま』

(バイロン・バートン／作 あかぎかずまさ／訳 ポプラ社 2018年)

この作品を最初に読んだ時、働く人の中に女の人がいることに気がつかなかった。こういった思い込みは、男女の役割を刷り込まれていたからだと思う。

一 自分らしく！エールを送る絵本

・『しげるのかあちゃん』

(城之内まつ子／作 大畑いくの／絵 岩崎書店 2012年)

しげるのかあちゃんは茶髪の大型トラックの運転手。壊れた犬小屋を直したり、火事の時にも大活躍する。ともすれば眉をひそめられがちなタイプの母親を魅力的に描いた絵本となっている。

一 男だって強くなくても大丈夫

・『おとうさん・パパ・おとうちゃん』

(みやにしたつや／作・絵 鈴木出版 1996年)

父親は子どもの最も身近にいるモデルといえる。6組の親子の関係がユーモラスに描かれているが、最後にミミズを持った子どもに追いかける父親の職業は実はプロレスラー。戦う強い男性がミミズで逃げ回るなんて子どもにはほっとする場面ではないだろうか。どんなに強く見えても弱みがあるということは、強いことを期待される男の子にとって救いになるのでは。

一 人権・多様性の視点を未来につなげる

・『ようこそ！あかちゃん せかいじゅうの家族のはじまりのおはなし』

(レイチェル・グリーンナー／文 クレア・オーウェン／絵 浦野匡子・良香織／訳・解説 大月書店 2021年)

イギリスで出版された絵本。一人親、養子、女性同士・男性同士のカップル、障がいのある親から肌の色の違う夫婦まで描かれている。赤ちゃん

が家族になる始まりの時点で、それぞれどの家族も特別で「あなたとあなたの家族はそのままですごいてこと！」と繰り返し伝えてくれる。体外受精など妊娠の仕方も様々に描かれ、性教育は身体の仕組みを学ぶだけでなく、人間関係や社会の様々な課題を幅広く学ぶということがわかる。



**絵**本を通して想像したり、疑似体験することで、自分と違う「立場・個性・考え」の人が理解できるのではないか。ジェンダーという特別なことに思いがちだが、生活の中で当たり前にな身につけていきたい思いやりや想像力なのではないかと思う。



**そ**の他、講演では上記の絵本を含む67冊が紹介されました。その一部を記載します。

- 自分らしく（女の子に）
  - ・『たかくとびたて女の子』  
(ラケル・ディアス・レゲーラ／作 星野由美／訳 汐文社 2020年)
- 自立したおひめさま
  - ・『はじめましてスマレひめよ』  
(ハーウィン・オラム／ぶん スーザン・バーレイ／え 小川仁央／やく 評論社 1999年)
- 家事・育児を楽しむ男性
  - ・『ジャムおじさま』  
(マーガレット・マーヒー／文 ヘレン・クレイグ／絵 たなかかおるこ／訳 徳間書店 1998年)
- 「男の沽券」にこだわらない！
  - ・『なんでもパパといっしょだよ』  
(フランク・アッシュ／えとぶん 山口文生／やく 評論社 1985年)
  - ・『ぼくのおばあちゃんはキックボクサー』  
(ねじめ正一／作 山村浩二／絵 くもん出版 2016年)
- パートナーとの関係
  - ・『ぼくのママはうんてんし』

- (おおともやすお／さく 福音館書店 2012年)
- 多様な家族
  - ・『おやすみアルフォンス』  
(グニッラ＝ベリィストロム／さく やまのうちきよこ／やく 偕成社 1981年)
  - ・『ジュリアンはマーメイド』  
(ジェシカ・ラブ／作 横山和江／訳 サウザンブックス社 2020年)
- 教育の果たす力
  - ・『ホオナニ、フラおどります』  
(ヘザー・ゲイル／文 ミカ・ソング／絵 クウレイナニ橋本／訳 さ・え・ら書房 2021年)
  - ・『111本の木』  
(リナ・シン／文 マリアンヌ・フェラー／絵 こだまともこ／訳 光村教育図書 2021年)
- 人権・多様性の視点を未来につなげる
  - ・『ふたりママの家で』  
(パトリシア・ポラッコ／絵・文 中川亜紀子／訳 サウザンブックス社 2018年)



講演会の様子



**自**分自身の刷り込みや思い込みに気づかされる講演でした。ジェンダーの視点は他者を尊重する視点の1つであり、誰にとっても無縁ではないのだと感じました。絵本からその「気づきのヒント」をたくさんもらうことができたお話でした。  
(安田)

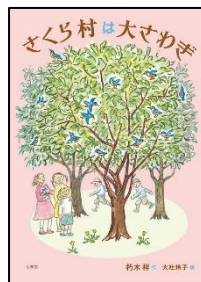
知識



『池の水なぜぬくの？』  
 外来種を探すだけではない  
 “ほんとうの理由”』  
 安斉 俊／著・絵  
 くもん出版  
 2021年7月

テレビで見かける「池の水ぬき」。外来種の発見などがクローズアップされがちだが、目的はそれだけではない。古い泥などを流しだしてきれいにし、池の中の環境を改善している。つまり、かつては洪水が起こしていたことを人工的に行って、池にすむ生きもの達を守っているのだ。本書では、そもそも池とは何か？ということや、実際に行われたあるため池の水ぬきの準備から完了までを詳しく紹介している。著者は水産試験場の勤務経験もあるサイエンスイラストレーター。【小学校高学年から】（安田）

読物



『さくら村は大さわぎ』  
 朽木 祥／作  
 大社 玲子／絵  
 小学館  
 2021年2月

子どもが生まれるとさくらの苗木を一本植える“さくら村”。そこで起きるさまざまなきごとが、小学3年生のハナによって語られる。おにいちゃんの自転車のヘルメットにキセキレイが巣を作ったり、湿地でしりもちをついたヨリトモくんのからだじゅうにホタルがとまったり、満月の夜に海辺でみんなとアカテガニの行進をみたり。さくら村の自然豊かな四季が、そこで暮らす人びとの日々の営みとともに穏やかに描かれ、ほっとする温かい読後感を与えてくれる。【小学校中学年から】（山下）

読物



『ロザリンドの庭』  
 エルサ・ベスコフ／作  
 植垣 歩子／絵  
 菱木 晃子／訳  
 あすなる書房  
 2021年2月

6才の少年ラーシュ・エリックは、体が弱く、昼間おかあさんが働きに出ている間は、ひとりベッドの中で過ごす毎日だった。ある日、壁紙の花模様をじっと見ていると、とつぜん壁紙からロザリンドという不思議な女の子があらわれる。彼女の提案する魅力的な遊びで日に日に元気になっていくエリックだったが、ある日家がとりこわされ、引っ越さなければならなくなってしまう。ふしぎな出会いと別れ、そしてまた別の新しい出会いの中でロザリンドの正体がわかってくる。北欧で読みつがれてきたエルサ・ベスコフの作品。【小学校中学年から】（水井）

絵本



『ホオナニ、フラおどります』  
 ヘザー・ゲイル／文  
 ミカ・ソング／絵  
 クウレイナニ橋本／訳  
 さ・え・ら書房  
 2021年1月

主人公のホオナニは、自分のことを女とも男とも思わず、ただホオナニでいるのが好き。ある日、男子チームが古典フラをイベントで発表すると聞き、メンバーになりたいホオナニはオーディションを受けることに。時に弱気になりにながらも、「自分を信じて、つよく、しっかりと」と繰り返し自分を勇気づけ、練習に励んだホオナニはリーダーにも選出され、本番を迎える。ストーリーで描かれるホオナニの堂々とした姿が絵にもよく表れている。実話にもとづくお話。【小学校低学年から】（安田）